

## 平成 26 年 (2014 年) 8 月豪雨による広島市土砂災害における消防機関の活動

### 広域応援室

#### 1 はじめに

日本付近に前線が停滞し、暖かく非常に湿った空気が流れ込み、平成26年8月19日夜から20日明け方にかけて、広島市を中心に猛烈な雨となり、安佐北区三入では1時間降水量101.0ミリ、3時間降水量217.5ミリを観測するなど観測史上最大の値を記録しました。

この影響により、広島市安佐北区及び安佐南区では、20日未明に複数箇所土砂崩れが発生し、多くの死者が出るなど甚大な被害が発生しました。

亡くなられた方々のご冥福と被災された地域の一日も早い復旧・復興をお祈りします。

#### 2 被害の状況

人的被害	平成26年9月24日現在
死者	74名

※安佐北区可部東六丁目で救助活動中に再崩落した土砂に巻き込まれて死亡した消防職員1名を含む。



広島市安佐南区上空からの被害状況(国土地理院提供)

#### 3 消防庁の対応

消防庁では、20日午前4時30分に応急対策室長を長とする「消防庁災害対策室(第1次応急体制)」を設置、午前8時30分には国民保護・防災部長を長とする「消防庁災害対策本部(第2次応急体制)」に格上げし、広

島県、広島市及び広島市消防局に対して適切な対応及び被害状況の報告を求めるとともに、情報収集を実施しました。

その後、午後0時30分に広島県知事から消防組織法に基づき、緊急消防援助隊の応援要請を受け、消防庁長官が1府3県の知事(大阪府・鳥取県・岡山県・高知県)に対して緊急消防援助隊の出動を求めました。21日午後7時30分には、救助体制を強化するため、新たに3県の知事(島根県・山口県・愛媛県)に対して緊急消防援助隊の出動を求めました。

22日午前9時00分には、災害対策基本法に基づき、政府に「平成26年(2014年)8月豪雨非常災害対策本部」が設置されたことを受け、消防庁の体制を消防庁長官を長とする「消防庁災害対策本部(第3次応急体制)」に格上げしました。

また、発災直後から消防庁職員及び消防研究センター職員を現地活動支援のために派遣し、被害状況の確認、緊急消防援助隊に関する調整等を実施しました。



消防庁職員による現地活動支援の状況

#### 4 消防機関の活動

##### (1) 緊急消防援助隊

消防庁から出動の求めを受けた緊急消防援助隊は、高度救助隊及び航空隊を中心とする編成で広島市へ迅速に出動しました。活動概要は次のとおりです。

##### ① 出動期間

平成26年8月20日～9月5日(17日間)



家屋倒壊現場における活動(岡山市消防局提供)

②活動規模

ア 全体 (延べ数)

緊急消防援助隊	活動規模
岡山市指揮支援隊 (岡山市消防局)	17隊68名
大阪府大隊 (大阪市消防局航空隊)	17隊119名
岡山県大隊 (14消防本部、岡山県消防防災航空隊)	333隊1,106名
鳥取県大隊 (鳥取県消防防災航空隊)	17隊102名
高知県大隊 (高知県消防防災航空隊)	17隊119名
島根県大隊 (9消防本部)	62隊288名
山口県大隊 (12消防本部)	87隊379名
愛媛県大隊 (9消防本部)	144隊453名
合計 (45消防本部、3県消防防災航空隊)	694隊2,634名

イ 活動規模のピーク

62隊 228名 (8月28日・30日)

③主な活動内容

ア 岡山市指揮支援隊は、消防をはじめ、自衛隊、警察等の実動機関で設置した現地合同指揮所において、活動エリアの区割りなど活動方針について他機関との調整を実施するとともに、緊急消防援助隊各隊に対する一体的な活動管理を実施しました。

イ 陸上隊は、災害現場において被害情報を収集するとともに、重機、津波・大規模風水害対策車両等の特殊車両を活用し、高度救助隊を中心として要救助者の検索、救助、瓦礫除去活動等を実施しました。

また、宿営地の広島県消防学校では、拠点機能形成車両等を活用し、隊員の後方支援活動を実施しました。

ウ 航空隊は、上空からの被害情報の収集、要救助者の捜索、隊員等の輸送を実施しました。

また、被害情報の収集において、緊急消防援助隊

の活動では初めてヘリサットを活用し、消防庁ヘリ5号機(高知県消防防災航空隊運航)から消防庁に映像を送信しました。



重機による活動(岡山市消防局提供)



水陸両用バギーによる活動(岡山市消防局提供)

(2) 広島県内広域消防相互応援協定に基づく応援

20日午前11時15分に広島市長から広島県内広域消防相互応援協定に基づく応援要請を受けて、広島県内12消防本部(広島市消防局を除く全消防本部)の応援隊が迅速に出動しました。

また、28日午後1時20分には、同協定に基づき、消防団に対する応援要請があり、県内8市町消防団(廿日市市・安芸高田市・府中町・海田町・熊野町・坂町・安芸太田町・北広島町)の応援隊が迅速に出動しました。活動概要は次のとおりです。

①出動期間

平成26年8月20日～9月5日(17日間)

※県内応援消防団は8月29日のみ

②活動規模

ア 全体(延べ数)

1,512名(うち県内応援消防団41名)

イ 活動規模のピーク

146名(8月29日)





### ③主な活動内容

ア 広島県内消防本部応援隊は、災害現場において被害情報を収集するとともに、要救助者の検索及び救助活動を実施しました。

また、無線中継車を活用し、被害状況や消防機関の活動状況について、消防庁に対して映像送信によるリアルタイムの情報提供を実施しました。

イ 広島県内消防団応援隊は、広島市消防局、広島県内消防本部応援隊及び緊急消防援助隊とともに要救助者の検索及び救助活動を実施しました。



無線中継車による消防庁に対する現地映像の送信

### (3) 広島県防災航空隊

広島県防災航空隊は、広島県災害対策本部の指示により、20日午前7時20分から安佐北区及び安佐南区の上空で被害情報を収集しました。

また、安佐南区八木の孤立地域において要救助者の救助活動、河川の搜索活動等を実施しました。

### (4) 広島市消防局及び広島市消防団（地元消防機関）

広島市では、20日午前1時35分に「広島市災害警戒本部」を設置し、その後、午前3時30分に「広島市災害対策本部」に格上げしました。

広島市消防局は、災害発生後直ちに被害情報を収集す



ヘリによる救助活動（広島市消防局提供）

るとともに、要救助者の検索及び救助活動を実施しました。

また、広島市消防団は、広島市消防局、広島県内消防本部応援隊及び緊急消防援助隊と要救助者の検索及び救助活動を実施するとともに、避難誘導や避難所における支援活動を実施しました。

## 5 実動機関との連携

発災直後から安佐南区の災害現場近くに設置された現地合同指揮所において、消防、自衛隊、警察、国土交通省（TEC-FORCE）等の実動機関が集まり、2次災害発生の危険性など災害現場の情報を共有するとともに、活動エリアの区割りなど活動方針を調整・決定しました。

また、災害現場においても、自衛隊、警察等と連携し、要救助者の検索及び救助活動を実施しました。



現地合同指揮所の状況

## 6 おわりに

今回の災害現場は、土砂崩れにより多くの土砂や瓦礫が堆積しており、また、夏季の高温多湿の過酷な状況でした。消防機関は、救助資機材の活用に加え、ヘリサットや無線中継車による情報収集・提供、重機による土砂や瓦礫の除去、水陸両用バギーによる隊員・資機材の輸送、拠点機能形成車両による後方支援などにより、効果的な救助活動を実施しました。

消防庁では、今回の活動を踏まえ、緊急消防援助隊のより迅速な出動及び効果的な救助活動ができるよう、また、実動機関との密接な連携が図られるよう、訓練等により運用強化を促進するとともに、車両・資機材の充実を図ることとしています。

### 問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部防災課 広域応援室 村主  
TEL: 03-5253-7527（直通）